



3年ぶりの修学旅行 ～京都・奈良へ～



第230号
発行

奥多摩町教育委員会

令和4年11月1日現在	
児童数	149名
生徒数	56名
教職員数	45名



今年のは、中学校入学当初から新型コロナウイルス拡大によるさまざまな影響や制限を受け過ぎてきました。入学当初はもとにも学校生活を送れない日々が



まだまだ感染防止対策を緩められない状況の中、人混みや宿舍での生活はマスクを着用し、暑い時には人から離れてマスクを外し、食事の時は黙食。体調や環境

を考慮しながら、適切にマスクを使うことができるのは、さすが3年生だと改めて感じました。また3日間でお世話になったさまざまな方々に、敬意をもって接することができました。お世話になった皆様からは「本当に良い生徒さんたちで、気持ちよく過ごせました！」とお褒めの言葉をいただきました。残念ながら参加できなかった同級生にも、自分たちで相談してお土産を買っていました。「自分たちだけ楽しんで、あとは関心なし」ではなく、周りの人たちにも配慮し、一緒に充実した時を過ごそうとする姿は、今年の3年生の長所だと思えます。

修学旅行後、学校では事後学習（まとめ）を始めました。各自が事前に調べたテーマを、実際に見て、感じて、その成果を個人新聞形式で発表します。どの生徒も、さまざまな歴史的建造物を見て、写真や動画で見るよりも迫力や重みを感じ、圧倒されたと言っていました。中学3年生の鋭い感性を存分に発揮して、それぞれの個性を生かした発表になることを楽しみにしています。報告 竹村 恭介

「文化遺産に触れ、大切にすることを育むこと」、「京都・奈良の持続可能な取組（SDGs）を探索し、社会に生かすこと」、「望ましい人間関係を構築すること」という3つの目標に沿って、各生徒が長期間にわたり事前学習と準備をしました。また係活動として、修学旅行実行委員は班行動・宿舍での生活の決まりや注意点など、全体的なことを自分たちで考え生徒全体に周知させました。他の生徒も保健入浴美化係、食事係、学習係、会計係、レク係をそれぞれ受け持ち、責任をもって係の仕事に取り組みました。

9月4日～6日の3日間は、ほとんど悪天候に見舞われることなく予定していたスケジュールを遂行し、生徒たちの努力や、修学旅行への期待を实らせることができました。連日33℃前後の蒸し暑い気候、体調を考えるともう少し曇りの時間が欲しい天気でした。しかし参加生徒全員が最後まで班行動をやり遂げることができ、揃って奥多摩まで帰ってくるこ

を考慮しながら、適切にマスクを使うことができるのは、さすが3年生だと改めて感じました。また3日間でお世話になったさまざまな方々に、敬意をもって接することができました。お世話になった皆様からは「本当に良い生徒さんたちで、気持ちよく過ごせました！」とお褒めの言葉をいただきました。残念ながら参加できなかった同級生にも、自分たちで相談してお土産を買っていました。「自分たちだけ楽しんで、あとは関心なし」ではなく、周りの人たちにも配慮し、一緒に充実した時を過ごそうとする姿は、今年の3年生の長所だと思えます。

修学旅行後、学校では事後学習（まとめ）を始めました。各自が事前に調べたテーマを、実際に見て、感じて、その成果を個人新聞形式で発表します。どの生徒も、さまざまな歴史的建造物を見て、写真や動画で見るよりも迫力や重みを感じ、圧倒されたと言っていました。中学3年生の鋭い感性を存分に発揮して、それぞれの個性を生かした発表になることを楽しみにしています。報告 竹村 恭介



古里小学校の近況報告

全校遠足に行つてきました

〜永山丘陵ハイキングコース〜

運動会が終わり、子どもたちは全校遠足に向けて準備を進めました。事前に縦割り班ミーティングを全校で行い、班のめあてや、歩く順番等を決めました。そして、10月3日秋晴れの中、全校遠足を実施しました。

古里駅から電車で宮ノ平駅に向かい、そこから風の子・太陽の子広場までハイキングをしました。ハイキングの途中、「秋探し」をしたり、休憩所から見える美しい景色を楽しんだりしながらゴールを目指しました。

お昼は、気持ちのよい芝生広場でお弁当をいただき、その後は、オリエンテーリングを班のみんなで楽しみました。活動の途中で写真撮影をする場では「モデルさんのように、笑顔でね〜。」とお願いすると、どの子どもたちも、とびっきりの笑顔で、本物のモデルのようなポーズを決めてくれました。

この行事を通して、上級生は

下級生の面倒を見る、下級生は上級生の話をよく聞いて行動する、という経験を積むことができました。「高学年が班をまとめて活動する」という古里小学校の縦割り班活動の伝統を、今年の6年生もしっかりと受け継ぎ、安全に楽しく全校遠足を終えることができました。来年度も楽しみみです。

報告 北沢彩



広い芝生広場にて昼食

秋を感じながら
ハイキング



氷川小学校の近況報告

運動会開催

10月1日にさわやかな秋晴れの下、運動会を開催しました。

今年度も、高学年がリーダーシップをとりながら、伝統の氷川獅子やソーラン節、全校リレーの練習に、約1か月間取り組みました。どのような運動会にしていきたいか、4年生から6年生で構成された実行委員会が中心になってスローガンを決めることから始めました。今年度スローガンは、「P パワフルに・A 明るい笑顔で・U 運動会をやりとげよう」でした。児童が主体的に、自分たちの手で運動会をつくり上げていくことができるよう、教職員も導き、支援しました。



高学年中心に練習の振り返り



白熱した全校リレー

高学年の児童は、何度も思い通りにならない場面に遭遇しましたが、粘り強く考え、友達と相談して、一つ一つの課題を乗り越えました。閉会式で、赤組・白組それぞれのチームリーダーと、実行委員会委員長が運動会を振り返り、一言ずつ話をしました。3人とも自己の成長と達成感を、堂々と自信をもって話し、その姿が今年度の運動会の成果を物語っているようでした。

運動会当日は日差しの強い中でしたが、多くの方々に御来場いただき、温かい拍手をたくさん送っていただきました。子どもたちにとって大きな励みになりました。ありがとうございました。

報告 野尻迅人

令和4年度全国学力・学習状況調査結果から見る、児童・生徒の学習状況について

令和4年4月に、小学6年生と中学3年生を対象に全国学力・学習状況調査を実施しました。例年の国語と算数・数学に加えて、今年度は理科の調査も実施されました。本調査の結果から、奥多摩町の子どもたちは、義務教育を終えるまでに、基礎的・基本的な学習内容の定着が概ね図られていることが見て取れました。ここでは、奥多摩町の子どもたちの正答率が低かった調査問題を取り上げます。このような問題を子どもたちは苦手としていることを踏まえて、本調査結果を学校での指導やご家庭での教育にお役立ていただきたいと思います。

小学校・国語 ☆学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題

次の下線部を漢字でていねいに書きましょう。

運動が苦手な人もしたしむことができるように、ルールや道具をくふうした、おに遊びやボールゲームを各学級にしょうかいしたいです。

正答：親しむ

◇奥多摩町の児童の約6割が誤答となり、このうち約3割が無回答でした。

- ・音読みや訓読み、送り仮名だけでなく、似た意味や反対の意味の漢字、使われている熟語などを確かめながら、繰り返し練習して漢字を覚えることが大切です。

小学校・算数 ☆割合を求める問題

りんごの果汁が20%ふくまれている飲み物が500mLあります。この飲み物を2人で等しく分けると、1人分は250mLになります。250mLの飲み物にふくまれている果汁の割合について、次のようにまとめます。250mLは、500mLの $\frac{1}{2}$ の量です。このとき、(①から③で、あてはまる文を選びましょう)

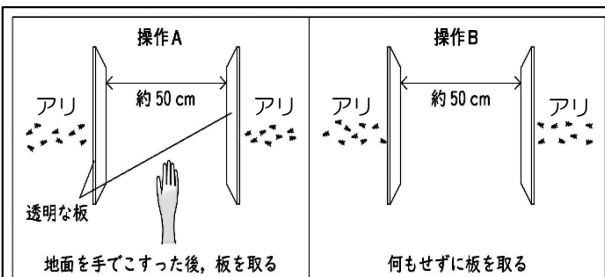
- ① 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合も $\frac{1}{2}$ になります。
- ② 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になると、果汁の割合は2倍になります。
- ③ 飲み物の量が $\frac{1}{2}$ になっても、果汁の割合は変わりません。

正答：③

◇奥多摩町の児童の約9割が誤答となり、①を選択した児童が7割以上いました。

- ・飲み物を分けても、飲み物の濃さは変わらないという生活経験を想起することが大切です。算数の問題を日常の具体的な場面に対応させながら考えていく必要があります。

中学校・理科 ☆実験の操作や条件に関する問題



アリをつぶさないように2枚の透明な板で行列を分断

【結果の予想】
嗅覚による情報をもとにしていれば、操作Aは行列をつくらず、操作Bは行列をつくらう。

もし、【結果の予想】と異なり、操作Aも操作Bも行列をつくる結果になった場合は、どのように考えればよいですか。

○私は、嗅覚による情報をもとにしていないと考えます。

○私は、アリの種類を変えて同じ操作で確かめるとよいと考えます。

○私は、操作Aで、() ことができなかったのではないかと考えます。

正答例：においを消す・十分に板の間隔をとる・十分に地面を手でこする

◇奥多摩町の生徒の正答率は約5割ほどでした。

- ・予想や仮説と異なる結果が出た場合は、実験の操作や条件の制御など探究の方法も含めて考察することが大切になります。

3年ぶりのオーストラリア訪問
中学生・高校生海外派遣事業

町では、国際的な視野をもった青少年の育成を目的として、中学生・高校生の海外派遣事業を行っています。

3年ぶりの実施となった今回は、8月2日から9日までの間、中学生7名、高校生5名を、オーストラリアのゴールドコーストへ派遣しました。

【現地での主な活動】

○英会話レッスン 中学生と高校生の2クラスに分かれ、現地の先生によるレッスンを行いました。ゲームを交えるなど、英会話を学びながら先生と楽しく交流することができました。



英会話レッスンの様子

○動物保護学習 カランビン・ワイルドライフ・サンクチュアリ動物園では、日本にはいない生き物の見学のほか、動物保護活動の説明などを受けました。

○海辺の環境保護活動 ライフガードによる環境保護の説明を受け、浜辺の清掃活動などを行ったほか、ビーチフラッグなどのスポーツを体験しました。



ビーチでの活動

○夜間活動 国立公園内でのツチボタル見学や、ガイドによる固有植物の説明を受けました。また、南半球の星空観賞を行いました。

○留学生との交流 奥多摩出身で現地スクールに通う留学生をお招きし、自身の体験談をお話しいただくなど、貴重な時間を得ることができました。

神津島洋上セミナー
8月16日～19日3年ぶり実施

今年度は小学生13名、中学生21名、ボランティア6名、事務局2名の計42名が、バスにて奥多摩町を出発しました。

夜20時半頃に竹芝栈橋に到着し、大型客船に乗船、23時に

出港しました。子ども達はこれから始まるセミナーに向けて気持ちが高まっている様子でした。船は4つの島を寄港・経由し、

終着の神津島には17日午前9時頃に到着。島での最初の活動は黒曜石ストラップ作りでした。各々、世界にひとつだけの黒曜石ストラップが完成しました。午後は白浜海岸を散策した後、赤崎海岸で海水浴を行いました。飛び込み台が設置されており、そこから何度も飛び込み、潜ったり魚を探したりして神津島の海の自然を学びました。18日は雨予報のため、午前中は郷土資料館を見学し、黒曜石のことや、伝統行事について学びました。午後は波が穏やかな多幸湾丸島海水浴場で活動を行い

ました。磯遊びをする子や、浮き島まで泳いで飛び込む子もいました。泳ぎに自信がない子でも、浮き輪を上手に使って泳ぐことができました。

19日最終日は、お土産を購入し、高速ジェット船に乗船。大型客船とはまた一味違う船旅を体験しながら、熱海港へと到着しました。そこからバスで奥多摩まで帰り、解散となりました。

複数の学年が参加する神津島洋上セミナーでは、中学生が小学生を見守り、活動班の班長として活動しました。自身の成長や見つめ直す点が見つかったのではないのでしょうか。その経験を今後活かしてほしいです。小学生は中学生の姿を見て今後の成長目標としてほしいです。



赤崎海岸での海水浴の様子

「二十歳を祝う会(旧成人式)」
のご案内

今回、対象となる方は、平成14年4月2日から平成15年4月1日までに生まれ、現在町内にお住まいの方、または町内の小中学校を卒業された方です。対象の方には、ハガキで12月中旬にご案内します。お気軽にお越しください。

【日時】令和5年1月9日(月・祝)

午前10時より

【会場】奥多摩文化会館

【お問合せ】教育課社会教育係

TEL (83) 2246

子ども国際交流
音楽祭開催

子ども国際交流音楽祭が10月10日羽村市プリモホールゆとろぎにおいて3年ぶりに開催されました。

町内の小中学校の生徒が合唱団に参加し、6月から本番に向けて練習を重ね、音楽祭当日は、ウィーンの一류音楽家の木管5重奏の演奏に合わせ、大舞台上で練習の成果を披露しました。また、翌日には奥多摩中学校

体育館において、「奥多摩交流音楽祭」が開催され、奥多摩中学校全学年と、古里・氷川小学校5・6年生が参加し、ウィーンフィルの音楽家による演奏を鑑賞しました。



♪ 奥多摩交流音楽祭と子ども国際交流音楽祭の様子 ♪

第2回奥多摩スポーツ
フェスティバルを開催

10月16日に古里小学校・文化会館において「第2回奥多摩スポーツフェスティバル」を4年ぶりに開催しました。



全員揃ってラジオ体操

奥多摩清流太鼓のオープニングに始まり、校庭では昔遊びの竹馬やベーゴマ、グラウンドゴルフ、ストラックアウトの体験、体育館では、ボルダリング、ボッチャ、卓球マシンの体験、プールサイドでは、健康体操・イスヨガ、ばいばいゲーム、文化会館では、伝統文化継承コーナーとして、地域の方言や獅子舞の紹介、あやとりやけん玉、おはじきや折り紙、健康コーナー

として、体成分分析、健康相談、脳トレゲーム等の体験をしました。



卓球マシンを使って体験



プールサイドで健康体操

コロナ禍での半日開催ではありましたが、多くの参加者でにぎわいました。スポーツや健康体験を通して、久しぶりに笑顔を交わしながら、みんなが楽しく参加している様子がたくさん見られました。

教育長に野崎喜久美氏就任

前教育長若菜伸一氏が任期満了に伴い9月30日付で教育長を退任したことにより、その後任として野崎喜久美氏が令和4年第3回定例町議会の同意を得て、10月1日付で教育長に就任されました。



野崎 喜久美 氏

野崎氏は、平成15年10月から25年12月まで羽村市教育委員会において教育委員長、教育委員を歴任し、平成29年7月から令和2年6月まで山梨県丹波山村の教育長を務められ、その後、株式会社QOLたばやまの常務取締役を経て、執行役員兼総支配人を務めていました。教育長の任期は令和7年9月30日までの3年間になります。

教育長就任にあたって

教育長 野崎 喜久美
このたび、若菜前教育長の任期満了に伴う後任として、奥多摩町議会のご同意をいただき、教育委員会教育長を拝命いたしました野崎喜久美です。

次世代の町を担っていく人材の育成を重点課題に置き、知・徳・体の調和のとれた人間を育てるため、「学ぶ力」、「豊かな心」、「健やかな体」を育成する教育を推進してまいります。
常日頃から考えることは、「子どもは町の宝」

大人が手本の町」

- ・子どもが輝く姿がまちを救う
 - ・子どもを輝かせる大人が大勢いるまち
 - ・子どもを見守る目がたくさんあるまち
- これらの視点から町の教育に携わっていききたいと考え、微力ながら最善を尽くす所存です。皆さまのご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

教育委員に小峰一郎氏再任

奥多摩町教育委員の小峰一郎氏は、10月6日で任期満了になることから、令和4年第3回定例町議会において同意を得て、10月7日付で再任されました。これに伴い、教育委員の構成は次のとおりとなりました

【奥多摩町教育委員の構成】

職名	氏名	住所	任期
教育長	野崎 喜久美	奥多摩町川野 66番地3	自 R 4. 10. 1 至 R 7. 9. 30
教育長 職務代理人	石田 充法	奥多摩町小丹波 519番地	自 R 1. 10. 1 至 R 5. 9. 30
委員	原島 幹典	奥多摩町氷川 1422番地	自 R 3. 10. 1 至 R 7. 9. 30
委員	榎戸 詠子	奥多摩町大丹波 850番地	自 R 2. 10. 1 至 R 6. 9. 30
委員	小峰 一郎	奥多摩町氷川 425番地	自 R 4. 10. 7 至 R 8. 10. 6

教育委員会の動き

(5月〜10月)

- ◎5月定例会(5月23日)
・議案第11号―奥多摩町文化財保護審議会委員の委嘱について
他2議案
- ◎6月定例会(6月23日)
・議案第14号―専決処分承認を求めることについて(奥多摩町立学校学校運営協議会委員の委嘱について)
- ◎7月定例会(7月26日)
・議案第15号―奥多摩町教育文化活動奨励者推薦委員の委嘱について
- ◎8月定例会(8月30日)
・教育長報告・教育課長報告他
- ◎9月定例会(9月29日)
・議案第16号―奥多摩町教育委員会教育長職務代理人の指名について他1議案
- ◎10月定例会(10月25日)
・教育長報告・教育課長報告他



区域外就学及び
指定校変更について

各小・中学校ごとに通学区域を定め、児童生徒の就学すべき学校を指定しておりますが、指定校以外への就学を希望する場合は教育委員会に必要書類を添えて申請してください。

区域外就学

奥多摩町以外から奥多摩町立学校を希望する場合

指定校変更（小学校のみ）

教育委員会が指定した学校以外に就学を希望する場合

申請ができるのは主に次の理由です。

- 転居予定
 - 身体的・家庭的理由
 - その他特別な理由により教育的配慮が必要と思われる場合等
- 手続き方法**

事由別にそれぞれ必要な書類がありますので、事前にお問い合わせください。

申請の内容を審査し変更の可否を行います。学校運営上または施設状況等から判断し、ご希望に添えない場合もあります。

【問合せ先】

教育課学務係 (83) 2246

就学援助費 新入学児童生徒
用品費の入学前支給について

経済的な理由によって、お子様の就学費の支出が困難なご家庭に対して学用品費、学校給食費など学校でかかる費用の一部を援助しています。「準要保護」認定を受けた場合に就学援助費のうち、入学に必要な「新入学児童生徒用品費」について、入学前の3月に支給を実施します。支援を希望される方は、左記の要件を確認のうえ必要書類を添えて申請してください。

次のすべての要件に該当する方

- 令和5年2月1日に、町に住民登録がある方
- 令和5年4月に、公立小・中学校の入学予定の方
- 準要保護世帯である方（認定を受けた世帯）

【申請期間】

令和4年12月12日（月）から
令和5年1月16日（月）まで

【申請・問合せ先】

教育課学務係 (83) 2246

❖教育相談室より❖

自律神経を整え
イキイキ生活！

スクールソーシャルワーカー

楠見 潔

私たちの体は、自分で考えなくとも呼吸し、体温を調整してくれま

す。この自律神経は、整えて

良い状態を保つことができれば、

よく学べて、しっかりと眠れま

す。でも乱れてくると、頭痛が

したり、胃腸の調子が悪くなっ

たりして、楽しく学校生活を送

れません。最近、小学校高学年

から中学生に多くみられる起立

性調節障害も自律神経の乱れが

関係しているといわれています。

今回は「自律神経を整える」

ことをキーワードに、子育てに

役立ちそうなお話を少しだけし

たいと思います。

まず、自律神経についてもう

少し説明しましょう。自律神経

は「交感神経」と「副交感神経」

の二つから構成されています。

交感神経は、アクティブに活動

するための「アクセル」として、

副交感神経は、リラクセスする

ための「ブレーキ」としてはた

らいています。整えるポイント

は、アクセルもブレーキもよく

効く状態にしておくこと。これ

が大切です。

アクセルの調整には、睡眠時

間をしっかりとって朝日を感じ

て起きること、ブレーキの調整

には、寝る2時間前には、ゲー

ムやスマホなどの視覚刺激を入

れないことがおすすめです。特

にブレーキの調整は難しいので、

工夫が必要です。また、親子関

係で気をつけたいのが、叱ると

きです。ついイラツとして早口

になって、強く言ってしまうこ

とはないでしょうか。こんな時

は自律神経が乱れがち。ゆっく

り話すことで自律神経が整い、

その場の空気が柔らかくなって、

子どもに言いたいことが伝わる

ことが増えます。

「自律神経を整える」ことは、

イキイキ生活のキーワードにな

ると思います。

【TEL・FAX】(83) 2340

【メール】okusoudan@town.

okutama.tokyo.jp

郷土奥多摩(文化財)

その26

大丹波の獅子舞

文化財保護審議会委員

福島喜彦

今回は、私の地元で町指定無形民俗文化財となっている「大丹波の獅子舞」です。

大丹波の獅子舞は、総鎮守青木神社の社前で行われます。創始年代は不明ですが、大丹波では代々、寛文元年(1660年)頃伝わったと語り継がれていて、平成22年には、獅子舞創始350年祭が盛大に行われました。さらに高水山所蔵の古文書によれば、明和5年(1768年)に青梅市高水山に伝授され、27年後の寛政7年(1795年)に免許皆伝となったと記されています。そして文化5年(1808年)



青木神社拝殿

頃には、高水山から埼玉県飯能市下名栗に伝授されたとされています。現在もそれぞれの祭礼に代表が訪問し合い交流しています。ちなみに下名栗の獅子舞は埼玉県の無形民俗文化財です。平成22年の獅子舞創始350年祭では、青木神社の境内で「三拍子」の演目を大丹波、高水山、下名栗の各獅子舞が一堂に会し披露されました。大丹波の獅子舞が伝承された同じ演目ですが、長い年月を経て、それぞれが独自に深化していて、興味深いものでした。



獅子頭

冠かむった大きさ
らすり4人
に唄方、笛
方が加わっ
て行きます。

大丹波の獅子舞は、総鎮守青木神社の例祭8月末の日曜日(以前は9月1日)に行われ、東日本に数多くある三匹獅子舞で、獅子の名称は、大太夫、仲太夫、女獅子です。獅子3人と花笠を

奥多摩町では、14の地域で獅子舞が行われていますが、大丹波の獅子舞は、「舞う」というより「狂う」が適した獅子舞で、他地区の獅子舞と比べて演式に多くの相違が見られると言われています。さらに、獅子頭は、大太夫が金色のねじれ角、仲太夫は赤金色で四角隅切形の角、女獅子は男獅子よりひとまわり小形で赤金色の角、鼻は男獅子のは獅子っ鼻で鼻穴が喇叭のようになっていると勇壮です。女獅子は丸形になっています。獅子舞の型は勇壮で、静から動へ、動から静への転換が絶妙であると言われています。さらに、各演目の最後の「散らし」は独特で、観客を含め非常に盛り上がります。演目は7演目あり、一番長い演目は、約100分にもなります。



御幣掛り

(地元ではおんべいと呼ばれています。)

また現在は、小学生が舞う「子供獅子舞」が午前・午後各一回行われ人気を博しています。

祭礼当日は、古くからの伝承を守って輪光院で「花掛り」を舞い、その後、道中獅子で南平を迂回して青木神社に登拝し、宮参りの舞を奉納します。そして、午前に「御幣掛り」「三拍子」「竿掛り」、午後は「花掛り」「女獅子隠し」最後に「白刃」その後、千秋楽の儀を行い終了になります。祭礼が終わると黄昏の中、笛の響きが耳にいつまでも残りながら帰路につくのです。

新型コロナの影響で3年間祭礼が神事のみで中止になりましたが、改めて祭礼は、地域を元気にし、人々の絆や郷土愛を強くして、心を豊かにする大切な場であることを強く感じる次第です。そして、先代の努力により350有余年に渡り、脈々と受け継がれてきた獅子舞を、後継者問題等ありますが、次の世代に伝えるのが、現在に生きる者の使命でないかと思うのです。

コロナ禍が早く終息し、祭礼が以前と同様に実施できる事を願うばかりです。